

第2学年 国語科学習指導案

平成30年9月26日(水) 2校時

2年教室 神内 富美子

星 佳恵

1. 単元名 声やうごきであらわそう「名前を見てちょうだい」

2. 単元の目標

人物に気をつけて場面を分け、それぞれの場面の人物の様子を想像し、音読や動作で表現することができる。

3. 学級の実態

本学級の児童は、読書を好み、音読や書くことに意欲的に取り組む児童が多い一方で、落ち着いて話を聞くこと、集中して取り組むことが苦手な男児が数名いる。NRTの学力偏差値は、国語科は全国平均を上回っているが、読み取りの話し合いでは、進んで発言する児童がやや固定化してしまう傾向がある。ペアで自分の考えを伝えることから、全体での学びにつながる想像はたり手養読を工夫していきたいと考えている。

4. 学習指導計画(総時数15時間)

次	時数	主な学習計画
一次	1・2	学習の見通しを立てる。
二次	3・4	出てきた人物や人物がいた場所を手がかりに場面分けをする。
	5～11 (本時9/15)	それぞれの場面のえっちゃんやほかの人物(きつね、牛、大男)の様子を想像して書いたり、音読に表現したりする。
三次	12～15	音読の役割を話し合い、練習をし、グループごとに音読発表をする。

5. 研究主題を受けて

(1) つけたい力

- ・場面ごとの人物の様子を想像しながら読み取る力
- ・人物の様子や気持ちを想像して音読に表現する

(2) 主体的・対話的・深い学びの実現に向けて

○ 主体的な学びのために

場面ごとのえっちゃん和其他の人物の会話文や様子を表す言葉に線を引かせ、吹き出しなどで登場人物の気持ちを想像させ、音読に表現する。

○ 対話的な学びのために

場面ごとのえっちゃん和其他の人物の会話文や様子を表す言葉をペアや全体で確認する。読み取ったことを、グループで音読に表現する。

○ 深い学びのために

吹き出しの発表等を生かしながら、登場人物の様子や気持ちを読み取り、どう音読するかを考えさせる。さらに、グループでの音読のよさを認めていく。

6. 本時の目標と評価

【目標】○ 大男やえっちゃん、きつね、牛の様子を読み取り、それぞれの気持ちを想像したり、音読に表現したりすることができる。

[読むこと]

【評価】○ 大男やえっちゃん、きつね、牛の様子を読み取り、それぞれの気持ちを想像したり、音読に表現したりしている。

[ワークシート、音読]

7. 本時の研究の視点と手立て

視点1 主体的に学ぶための『学びのプラン』

- ① 音読発表という言語活動につながる場面ごとの読みの学習の展開の工夫
場面ごとの人物の様子をとらえる、想像する(ワークシート活用)⇒ペア・全体での確認⇒全体で話し合う⇒音読表現という学習展開で、見通しをもって読みの学習ができるようにする。

視点2 対話的に学ぶための『学びのスタイル』

① 全体での確かめやグループでの音読の場の設定

全体で、登場人物の様子が分かる所のサイドラインを確認する。グループ発表では、それぞれの読み方を交流する。

視点3 深い学びのための『学びのコーディネート』

② 発問による切り返し

「えっちゃんは、なぜ逃げなかったのか?」「では、どんな読み方にすればよいか?」などの発問で、気持ちと音読の仕方をつなげていく。

8. 本時の展開 (9/15) (・指導→点線 ・学び→二重線 ・留意点→※ ・評価→★)

4 (1) 大男に帽子を食べられてしまった時のえっちゃん達の行動や会話を読み取り、えっちゃん達の様子や気持ちを書く。(10分)

T「牛のしたことや言ったことをみんなで考えてワークシートに書いてみましょう。」
→くるりと向きをかえると、風のように走っていった。こわかったから。

T「きつねやえっちゃんの話は、自分で考えて18ページから、書いてみましょう。」
★えっちゃん達の様子を読み取り、気持ちを想像している。(ワークシート)

1 課題提示 (5分)

T「四場面では、牛が出てきて帽子の名前に不思議に思いましたね。」
→前時にまとめたワークシートから、内容を振りかえる。

T「今日の場面は、帽子を追いかけたら誰と会いましたか？」
→大男と出会った様子を読み取っていくことを確かめる。

4 (2) 全体できつねやえっちゃんの行動や会話、気持ちについて話し合う。(8分)

T「きつねやえっちゃんの会話や行動を発表して下さい？」
→くるりと向きをかえると、風のように走っていったむねをはって、きりりと見上げて

T「なぜ、えっちゃんは、逃げなかったのですか？」
「では、どんな読み方をすればいいですか？」
→強く返してほしいという気持ちで読む。

(えっちゃんたち)
←

め 大男と出会ったえっちゃんたち
ちのようすを読みとろう？

(大男)

- 木よりも高い。
- どかんとすわっていた。
- じろりと見下ろした。
- したなめずりをして

こわい。ぶきみ。

2 大男が出てくる5の場面前半を音読する。(5分)
一斉音読後、会話文を誰が言っているか確認する。

※本文を掲示し、サイドラインの確認ができるようにする。

5 役割読みをする。(5分)

「では、読み取った様子や気持ちが表れるように、4人グループになり、音読をしましょう。」
→音読練習では、上位児には、読み方のアドバイスをさせる。音読の上手な児童のよさを称賛していく。
★登場人物の様子や気持ちを生かして音読に表現している。(★音読)

6 本時のまとめとしての音読を振り返る。(2分)

7 次時の学習について知る。
T「明日は、えっちゃんが大男に立ち向かう所を読み取りましょう。」

3 大男の様子や会話について話し合う。(10分)

T「大男の様子が分かるところにサイドラインを引いて下さい。15ページでは、どうですか？」
→木よりも高い どかんとすわっていた

T「16ページでは、どうですか？」
→じろりと見下ろした。したなめずりをして

T「この大男をどう思いますか？」
→大きくてこわい。不気味な感じがする。

T「では、この会話文は、どんな風に読めばいいかな」
→ゆっくり、こわそうに読む。
★大男の様子を読み取っている。(発言)